「令和６年度全国学力・学習状況調査」

調査結果の概要と今後の取組について

丹波市立春日中学校

４月 18 日(木)に実施された令和６年度全国学力・学習状況調査結果の分析を行いました。その概要をお知らせいたします。

この調査で測ることができるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一部でしかありません。したがって、本調査で測れていない学力や教育活動を含め、総合的に分析し、今後の教育活動に役立てていきます。

１　調査の概要

⑴　目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

◇調査の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

⑵　内容

①教科に関する調査(国語・数学)

◇身に付けておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

◇知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力など。

②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

◇児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

◇学校に対する調査(指導方法に関する取組、指導方法の工夫、学校経営に関する取組、家庭・地域との連携の状況)

２　教科に関する調査の結果

⑴　**全体の概要**

今回の調査は「国語」「数学」の２教科で実施されました。調査結果は、「国語」「数学」とも、全国の平均正答率と比較して同程度という結果でした。ただ、「国語」「数学」共通して、無回答率が高い問題があること、「数学」は、分布状況を見るとやや２極化傾向にありました。今後は、個別最適な指導を工夫し、その傾向が解消されるようにしていきます。

⑵　国語

【成果】

「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の領域では、全国平均を上回っています。また中位層者の割合は全国平均を上回っています。

【課題】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題があります。特に、「行書の特徴の理解」に大きな課題があります。また、「内容を要約する」「文の成分」について課題があります。特に「内容を要約する」項目では、無回答率が高いです。記述式の問題について正答率は全国平均とほぼ同程度ですが、無回答率が高い傾向にあります。

【改善の方向性】

「知識及び技能」では、基礎的・基本的な学力の定着を目指し、言語事項や書写等の学習を反復して行っていきます。文章の要約、論述、話し合い等を今まで以上に意識して授業に取り入れ、工夫した言語活動をおこないます。とりわけ「書くこと」への抵抗感を軽減できるように短作文など書く機会を増やしていきます。さらに、個に応じた課題を解決できるような学習教材を作成し、取り組んでいきます。

⑶　数学

【成果】

「関数」や「データの活用」では、全国平均と同程度でした。正答数０～２問の者は全国平均を下回っています。

【課題】

「数と式」「図形」領域に課題が見られました。特に「等式の変形」や「図形の回転移動」に大きな課題があります。また、「数学的な表現を用いて説明する」「筋道を立てて説明する」など、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。「短答式」「記述式」の問題では無回答率が高い傾向にあります。下位層が多く、また、やや２極化傾向にあります。

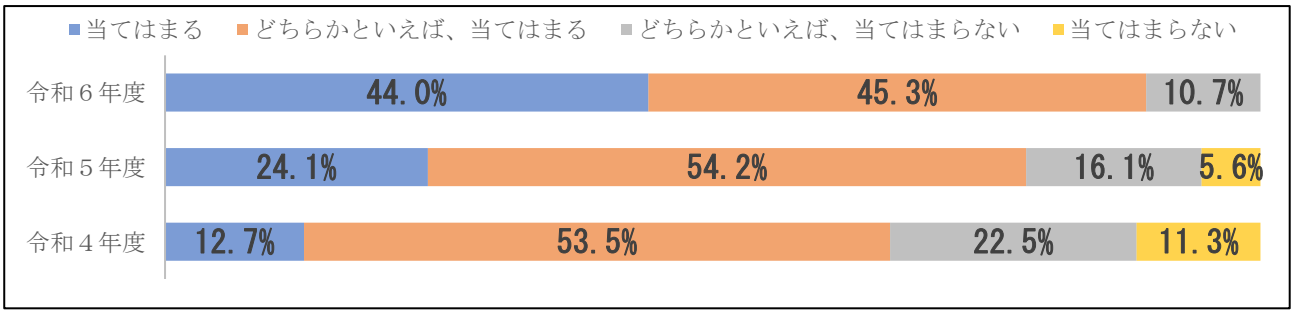
【改善の方向性】

題文から何を問われているのかを理解する力と解決するための道筋を考える力を身につけるために、小テストや単元テスト、問題演習の時間を増やし、「用語」の理解や解決へのパターンを繰り返したり、他者に説明させたりして、定着するための活動を取り入れていきます。基礎・基本の定着を中心にしながら、一人ひとりにあった学習教材を提示し、発展的な問題にも挑戦させていきます。

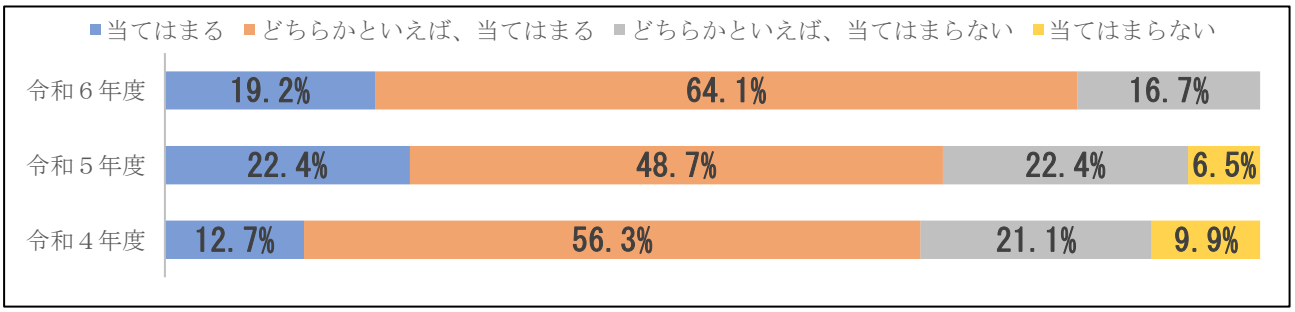
３　生徒質問紙の結果

学校生活

⑴　あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。〔経年変化グラフ〕

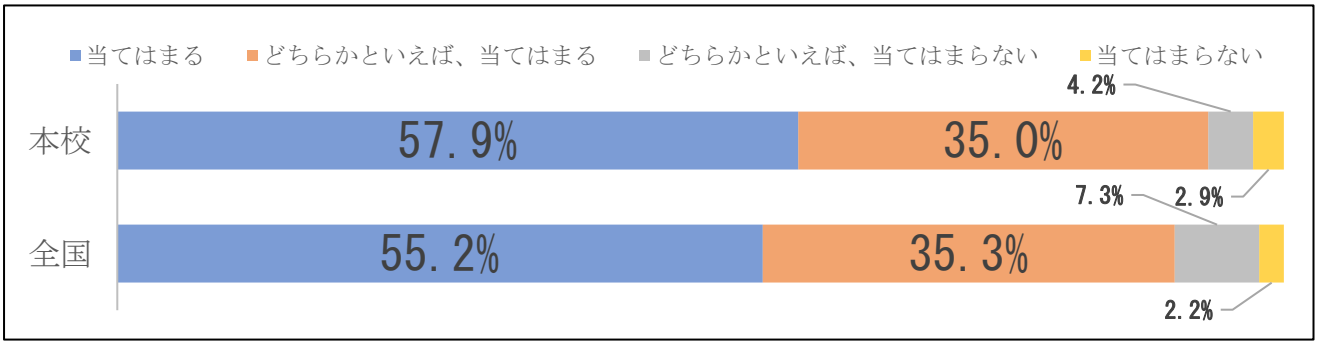


⑵　学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔経年変化グラフ〕

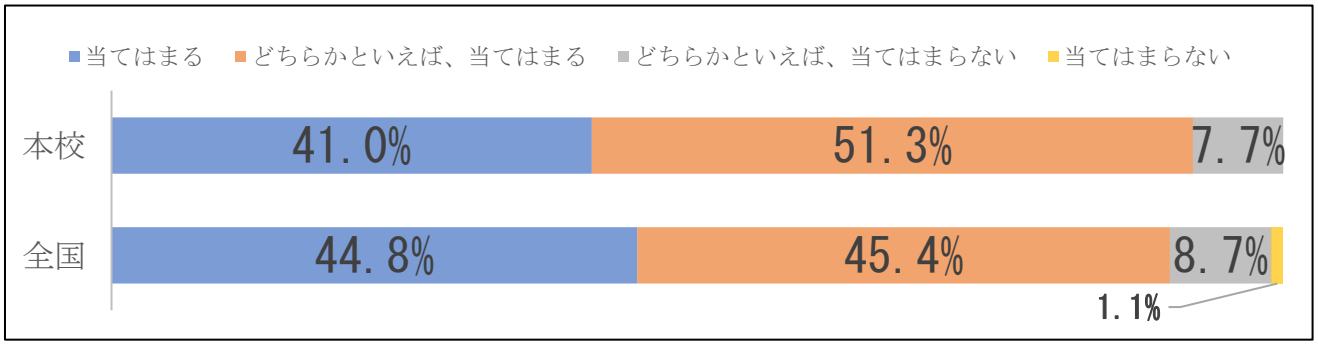


２つの項目とも、肯定的回答が経年ごとに増加しています。生徒同士の対話に基づいた「仲間づくり」「生徒支援」「学習支援」に取り組んできた成果であると思われます。今後も発展、継続させていきます。

⑶　友だち関係に満足していますか。



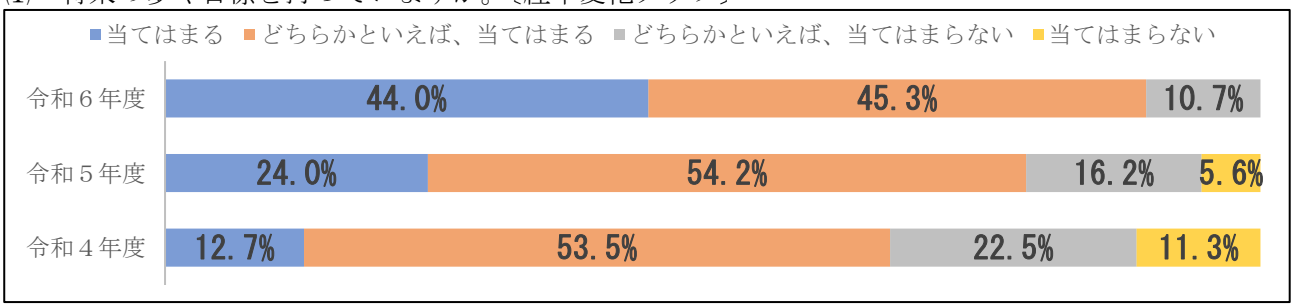
⑷　普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



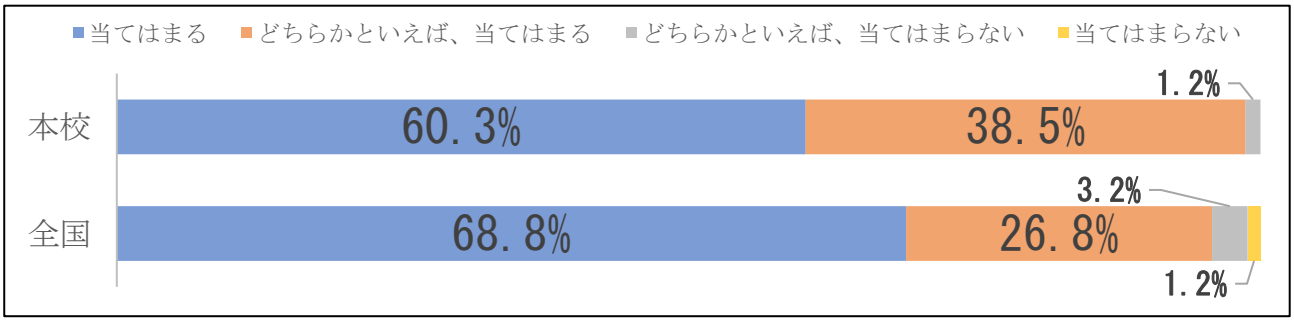
生徒のウェルビーイングを考えると、肯定的な回答が全国平均を上回っています。もちろんすべての生徒が肯定的に回答してほしいことです。しかしながら、7～8%の生徒が、否定的な回答をしています。“誰一人取り残さない”というＳＤＧｓの理念を実現していくためにも、この 7～8%の生徒にしっかり目を向けていかなければならないと感じています。

キャリア教育

⑴　将来の夢や目標を持っていますか。〔経年変化グラフ〕



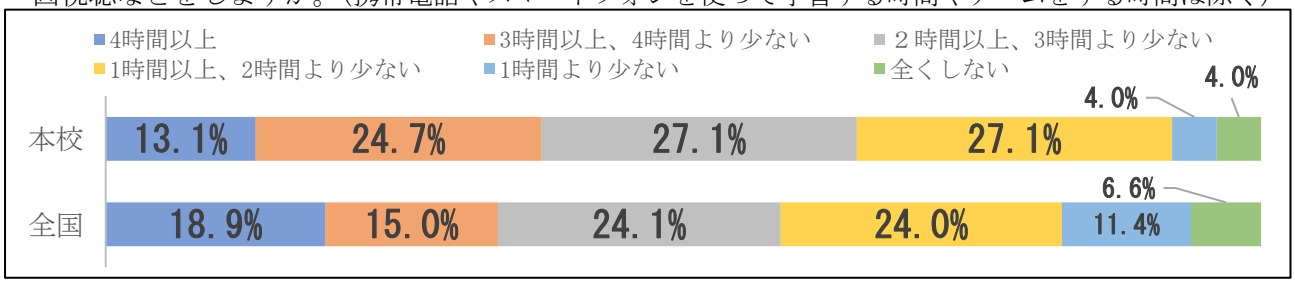
⑵　人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



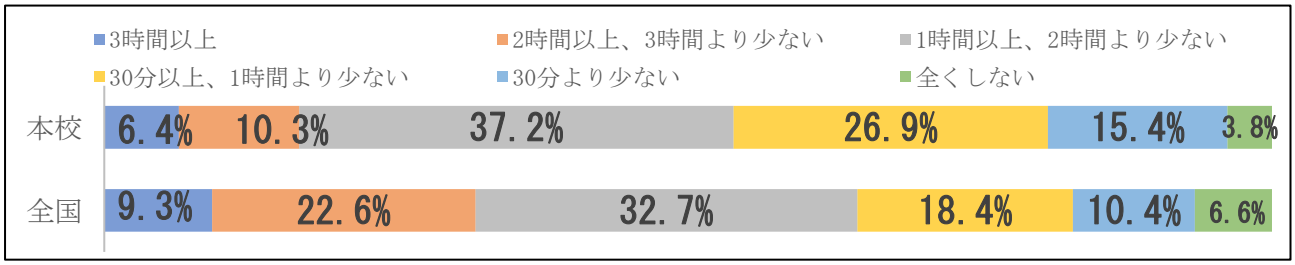
将来の夢や目標を持つことについては、依然として課題がありますが、「当てはまる」と答えた生徒は経年比較して倍増しています。また、98.8%の生徒が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。今後もキャリア教育をさらに充実させていきます。

学習への取組

⑴　普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



⑵　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



２時間以上ＳＮＳを使用している生徒が全体の 64.1%あります。全国と比較しても多い割合です。一方、２時間以上家庭学習に取り組んでいる割合は、16.7%であり、全国と比較しても少ない割合です。ＳＮＳについて家庭で使用のルールを作るなど、過剰な使用にならないようにし、計画的に家庭学習に取り組みましょう。

「安全・安心な学校づくり」に向け、集団の向上や個々への支援、生活習慣の向上をさらに進めていきます。さらに生徒の「居場所づくり」を推進し、意見を自由に言えたり、相手の意見をしっかり聞けたりする環境づくりに努めていきます。